



「やったあ！勝ったよ！」

7月4日に行われた、摩周丘幼稚園の運動会での一コマです。紅白対抗の綱引きで、園児たちが大奮闘。見事勝利を手にしたチームに、喜びの笑顔が弾けました。

(関連記事18～19ページ)

むかしむか史 (236)

てしかが歴史写真館 112
むかしむか史写真館



SP盤とソノシート(右)

弟子屋の新民謡

弟子屋には2曲の新民謡があります。一つは、1952(昭和27)年10月に行われた「第1回摩周湖観月祭」に合わせて作られた「♪♪ハー いでゆ弟子屋♪♪」で始まる「月の摩周」(振り付け:松賀吉次)。もう一つは、1953(昭和28)年9月に作られた「♪♪摩周 摩周山から 朝日がのぼる♪♪」でおなじみの「弟子屋音頭」(振り付け:吉野孝)です。いずれも、弟子屋町文化協会会員の木下春影(作詞)・瀬野清(作曲)の作品です。作詞者は「月の摩周」の歌詞は春夏秋冬四季の歌で4番であるが「弟子屋音頭」は9番まであるので知ってほしい」と言います。

この新民謡が作られたころの伴奏や歌は、同じく協会の電器店主が円盤式録音機で録音し、催しなどがあると披露していたのですが、録音盤はやわらかく、重いレコード針の電気蓄音機だったため、すぐに摩耗してしまいました。

1956(昭和31)年、本格的なレコード制作を日本コロムビアに依頼します。若山彰、コロムビア・ローズの歌唱でレコーディングが完成して、SP盤1,000枚が納品されました。しかし、レコード制作に268,000円かかり、協会の理事が連帯保証人となって銀行から300,000円を借り入れました。返済は、レコードの売上金と、協会の芸能サークルが催し物に出演した謝礼、さらには連帯保証人がポケットマネーを当てていました。苦勞して5年ほどかかって完済したときは、うれしくて祝賀会を開いたそうです。

1976(昭和51)年、レコードも残り少なくなってきて再版の話も出ます。でも、当時の借金返済の苦勞を思うとなかなかふんぎれずにいたのですが、文化協会員の電器店主がソノシートで制作をしています。

てしかが郷土研究会(松橋)

※SP盤/蓄音機用のレコードで回転数は78回転。
※ソノシート/極めて薄いレコード。安価で制作ができ、雑誌などの付録にすることがあった。
※当時の物価/かけうどん→1杯30円程度。現在の物価に換算すると、30万円はおおよそ500万円ほどか

Public relations magazine

2010.8 No.672

てしかが

主な内容

- 光ファイバーネットワークの整備が始まりました…②
- 摩周湖環境調査を行っています…④
- 第58号町議会だより第2回定例会…⑥
- 父子家庭の皆さんにも児童扶養手当が支給されます…⑩
- 運動会・体育大会…⑩
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑩

てしかが 2010.8

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/企画財政課 ☎482-2913 482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています